

(1) ダンスを地域資源に

地域資源をいう言葉を聞いて思い浮かぶものといえば、歴史的建造物や廃墟となった建物ではないだろうか。しかし地域資源とは考え方とアイデア次第で、どんなものでも資源と化す。今回私が地域資源として提案するものはダンスのイベントである。

なぜダンスのイベントをテーマとして選んだかという、単純に私が大学のストリートダンスサークルに所属しており、ダンスを通してたくさんの感動や貴重な経験をしてきた。そこでダンスによって人が笑顔になったり、たくさんの人がイベントのために集まってくれたりするような大きな影響力を持っていると思ったからである。

(2) 「生かす」とは

そもそもなぜ地域資源を生かしたいのか。過疎化の進んだ地域を活性化したい。伝統的な行事を続けたい。人がそう考えるのは自然なことだが、今回少し立ち止まって考えたい。人が何かをしたいと考えるときの原点となるものは、懐かしいという気持ち、わくわくするもの、感動など胸を動かすものを求めているからなのではないだろうか。この点でも私が提案するダンスのイベントは共通する。そして「生かす」についてより具体的に言う和一石二鳥、もしくは三鳥となるようなアイデアや行動一つでいろいろな関係がうまくいくようにすることをここでは「生かす」と呼んでいるのだとする。

設定としては人があまり集まらないような地域のお祭り、学校の行事、会社のイベントなど、人を集めたい、人を感動させたいと思えるものならどこでもできる。

(3) 現在の活動の光と影

現在、宇都宮大学のストリートダンスサークル doocle では年に1回学祭で1時間程度のショーケースのイベントを行っている。観客数は数えたことがないのではっきりとは言えないが、二日間の宇都宮大学の学祭の中でもかなりの人数を集めていることには違いない。また観客の中でも大学の学校の友達はもちろん、学校関係者、家族、他大学、他県の大学、地域の人までも見に来てくれている。こんなに地域の人や学校外の人が大学のイベントに興味を示してくれることがあるのだろうか。また子供から年配の方まで年齢層も幅広く、観客の人から「元気をもらった」「感動した」「毎年楽しみにしている」といった言葉を受け取ることが幾度かあった。これこそまさに地域資源を生かすことにつながるのではないだろうか。

しかしダンスのショー自体は学祭が1番大きいもので1時間だが、ショーを作るには莫大な時間と練習量が必要である。人の前で踊るのは数分という短い時間であり、スポットライトにあたっている時間は普段の生活の中では味わえない快感と達成感に満ち溢れるが、その光と反対に影の部分はかなり大きく、まず練習時間と練習場所の確保である。サークルとして活動している私たちは大学の体育館は一週間に6日、4時から9時まで使うことが可能であるが、実際のところ自分の生活費を稼ぐなどの理由でアルバイトをしている学生にとって4時9時とはまさにアルバイトの時間とかぶってしまい、体育館に行くことができない。しかし人前で踊るということで中途半端なクオリティーのものは絶対に許されず、

練習が必要となるが、先ほど述べた理由等から練習することができない。そして今までは学校内で本当は 9 時以降のサークル活動は禁止であったが、ひっそりと練習していたのが現状であった。しかしここ最近、学校支援課の方からの取締が厳しくなったことで学校内での深夜の練習が本格的に禁止となり、できなくなってしまった。まず深夜に練習するのは一般常識として非常識だということも理解できるし、夜遅いということもあって危険だというのはわかるが、私たちサークル側としてはとにかく練習が必要なのだ。また学業もおろそかにしたくないということも、もちろんある。私たちにとってサークルは決していい加減なものではなく本気でやっており、だからこそ人に感動を与えられるレベルのものを見せることができるのである。

様々な地域資源を生かす際には可視されやすい光の部分とされにくい影の部分があるが、今回私のテーマではセクターであり光と影の部分の両方を自分たちが請け負っている。

(4) 他県の活動

次に、もっと他にダンスが地域貢献につながっている事例がないか調べてみた。鳥取県ではストリートダンスプロジェクトと位置づけ、こどもダンスクラブの展開を行っている。「近年、ストリートダンスブームが全国的に広がり、都心部ではレベルの高いダンサーが活躍しており、最近のテレビ番組でもダンス関係が多く取り上げられています。教育分野においても中学校の必修科目（全国の6割超）にストリートダンスが組み込まれるなど、今後はダンス文化がさらに浸透していくものと考えます。（文部科学省新学習指導要項に基づく）」「時代にあったダンススクール事業を展開していくことが地域活性化や若者の育成に繋がり、そして新しいイベントや新しい仲間との出会いの環境を創っていきける先進的・モデル的事業とし、更なる地域発展へと繋げていきます。ダンスを通じて何が出来るのか、ダンスにはたくさんの可能性やチャンスが潜んでいるという事を知る機会を提供し、鳥取の活性化、若者育成へと繋がる起爆剤を創っていきます。 ※ストリートダンスとは、イメージをとらえた表現や踊りを通して仲間とのコミュニケーションを豊かにする運動で、仲間と共に感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることや喜びを味わうことの出来る運動です。」とのことだった¹。

(5) 新しいダンスの貢献の形

このプロジェクトを知ってさらに地域活性化活動に対しての光と影の部分が見えてきた。光の部分としては今まで私が述べてきたものは、ダンスを踊る側がダンスのショーを観客に見てもらい感動を味わってもらうという一方通行のものだったのに対して、このプロジェクトは子供にダンスを教え仲間とのコミュニケーションをとることによっての、コミュニケーション力の向上、自己表現の練習さらに自分たちも直接地域の人と接することができるというものがある。しかし影の部分として日本全体が今ダンスブームで教育にもダンスの授業が組み込まれ初めているのにもかかわらず、先ほども述べたように私たち自身も実感しているが、練習場所がなかったり、さらにダンスを披露する場所としてのクラブが

¹ 鳥取ストリートダンスプロジェクト(2014年1月現在)
<http://d-project3.com/dancedivision/gaiyou.html>

風営法によってクラブ閉鎖でなくなっているということも挙げられる。「現在の風営法(旧・風俗営業取締法)は、「売買春」を防止する目的で、終戦直後の1948年に制定されたものです。学校でダンスが教えられる一方、未だに法律で踊ることを規制するのは、時代にマッチしないのではないのでしょうか。多くのクラブ、ライブハウスは健全に音楽、踊りを通じて人と人が人間的にふれあう交流の場であり、青少年の健全な育成に向けて、薬物や暴力の排除・根絶、地域住民との融和にとりくんでいます²。」と述べられたおり、ここではあまり深く書くことはできないが、法律によってダンスの機会が狭まり、しかしダンスをもっと盛んにしていきたいといった矛盾が今の日本の問題の一つとしてある。

(6) 持続性と人との出会いから始まる繋がり

地域資源を生かす際に単発的でなく持続的なものがよいと考えられるが、持続性とはただそのものが続けばいいというものではない。時代は流れ、人も変わる。故に形も中身も変わらずにあり続けることは不可能であり、むしろそれを望んでいるわけではない。先ほどから述べている、私が所属しているダンスサークルも毎年メンバーが変わり、技術のレベルはもちろん、サークルに対する考え方やあり方も変わってくる。では持続性を持たせるにはどうすればよいのか。それは未来のことを考えながら今、在り続けることだと考える。後世に残したいという気持ちは先ほど述べたように、様々な感情や感動を自分の子供やそのあと、未来に生まれてくる子供達にも味わってほしいという気持ちから生まれ、流れゆく時代の中でその時代時代で未来のために今自分たちができることを考えて行動していくことが使命であり責任であると思うからである。

また地域資源を生かし、地域活性化するという事は私にとって、人と人が出会う機会をつくり、そこから繋がっていくことだと考えた。人は一人では生きていけないのは言うまでもないが、人がより豊かな生活をしようと考えたとき、やはりそこに必要となるものは人なのではないだろうか。今の自分、周り、地元、未来、すべてのことに共通することは暖かい人のつながりである。

² Let's Dance(2014年1月現在)
<http://www.letsdance.jp/about/>